

1 チーム7人でフィールドを駆け回り、ボールをパスし、トライを奪う——。リオデジャネイロ五輪から正式種目になった7人制ラグビー（通称・セブンス）は、一試合前後半各7分、一日に何試合も行われ、15人制ラグビーに比べ展開も早い。しかも、フィールドは15人制と同じ大きさというから、よりスピードと持久力が問われる。「相手に走り勝たないと、試合にも勝てないんです」そう話すのは、男子セブンス日本代表の松井千士選手。幼い頃から走ることが好きで、気づいた時にはラグビーをやっていたと言う彼は、高校時代に全国制覇を果たし、日の丸も背負ったキャリアの持ち主だ。だが、これらはすべて15人制におけるもの。大学生の時に初めて、7人制ラグビーの日本代表合宿に参加し、確信した。

「7人制ラグビーは、展開がどんどん変わるし、ボールが回ってくる回数も多い。自分の持ち味であるスピードを生かせるのは7人制だと思います」しかし、リオデジャネイロ五輪ではメンバー入りを逃し、悔しい思いをした。松井選手をはじめ、代表メンバーは7人制を専属としている選手は少なく、今も15人制の実業団チームに所属しながら、東京五輪に向けて精進を続ける日々だ。「僕は絶対に東京五輪は出る、と強い気持ちでやってきたので、五輪までは7人制に専念します。日本の選手は他国に比べると体が小さいけれど、フィールドに8人いるように思わせる、そんなラグビーが理想。サポートし合うことで、確実に自信もついています。東京五輪では、僕のスピードで相手を置き去りにして、トライを決めたいですね」

S

Sevens Japan

I'M JAPAN.

男子セブンス日本代表／7人制ラグビーの男子日本代表。2016年リオデジャネイロ五輪では4位入賞。毎年、HSBCワールドラグビーセブンスシリーズに参加し、世界を相手に実戦を積み重ねるほか、海外遠征や国内合宿により、東京五輪へ向けた強化を行っている。

国内線・国際線機内にて、ラグビーに関連した映像や音楽をお楽しみいただけます。（一部機材を除く）

走り勝てる
チームになる
ために

男子セブンス 日本代表

TOKYO 2020

Rugby

アスリートの肖像

文／佐藤双葉（編集部）
撮影／築田 純